

第4章 総括

企業ならびに卒業生に対して実施したアンケートから得られたデータならびに分析結果を前章までに示した。各章の内容を以下にまとめ、総括としたい。

第2章では、企業アンケートの集計ならびに分析結果を述べた。函館高専卒業生の平均的な仕事（勤務成績）に対する評価では、採用した企業の約9割が「満足している」と答え、本校卒業生に対する社会的評価は良好であると言える。本校の教育目標に見合った実力が概ね身についていると考えられる。JABEE 対応教育プログラム「複合型システム工学」の教育目標についての評価は良好であり、大方の企業の賛同を得ていると言える。さらにこれらの教育目標の中で、企業が特に重要と位置づけているのは、(A)創造力と指導力、(B)専門技術に関する基礎知識、(F)問題解決のためのデザイン能力である。それに対応して、本校の教育の中で、「数学・自然科学系の講義、専門の講義・実験実習科目」や「創造的な問題解決能力の育成に関連する科目」を特に重要と企業は位置づけている。資格関連については、技術士や TOEIC の資格が重要視されていた。また、情報処理技術に関しては、CAD や表計算などのレベルが求められている。

「函館高専に望むこと」という題目で、「学生へのアドバイス」と「教員に望むこと」を記述していただいた。在校生へ寄せられた意見の中で多かったのは、やはり、「基礎的な学力や専門科目の基礎知識を身に付けること」「一般教養を身に付けること」の類であったが、それに加えて、「積極性・コミュニケーション能力・道德観を身に付けること」などの意見も多かった。また、高専生活の中で「目標や夢をもつこと」などの意見もあった。一方、教員に対しては、学生への意見に対応して「基礎学力をきちんと身に付けさせる」に加えて、「知識だけでなく、物事に対する考え方を伝えてほしい」や、「最新技術を常に習得し、レベルアップに努めてほしい」など教員自身の研鑽への要望もあった。専門知識を教えることも重要であるが、それよりも道德観や人間教育を重視して欲しいという意見も多かったことは強く留める必要がある。

第3章では、卒業生アンケートの集計ならびに分析結果を述べた。本校で過ごした学生生活に対し自己評価していただいた結果、80点以上と答えた卒業生の割合が55%であり、100点も10%存在した。これらは喜ぶべき結果と考えられる。また、本校で受けた教育についての評価は、専門・理工系科目の内容と時間数は十分だが、英語をはじめとした文系科目が不十分である、また、プレゼンテーション能力や創造性の育成に関する科目、情報処理関係の科目が弱いという傾向が出ていた。これらは改善項目である。「複合型システム工学」プログラムの教育目標についてのアンケート結果は、本目標が卒業生にとっても十分な教育目標であるということを示している。これらの教育目標の中で卒業生が特に重要と位置づけているのは、(A)創造力と指導力、(E)国際的に通用するコミュニケーション基礎能力と言える。

卒業生から寄せられた意見について、在校生と教員へのメッセージ、そして、函館高専への提言といった観点からまとめた。在校生へ寄せられた意見の中で、最も多かったのが「しっかり勉強すること」というものであった。中でも「英語、専門知識、プレゼンテーションやコミュニケーション能力を身に付けることが特に重要である」と述べている。進学を奨める意見もあり、現代の技術者に求められている学力や研究開発能力などが伺える。他に、「目標を持って学生生活を送ること」や「有意義に過ごしてほしい」などのアドバイスもあった。

一方、教員に望むこととして、授業の改善や学生への指導方法の改善が挙げられた。「専門知識に欠ける講師によるいい加減な授業があった。学生の将来に彼らが責任をもっていたとは思えない」、「自分本位に授業を進める教官が多かった。学生の理解度に合わせて教育をしてほしい。」「レポート提出においてその評価が不明であった。レポート返却後もコメント一つ無く、苦労して作成しても今後のよいレポート作成へつながらない。」などの厳しい意見が寄せられており、これらは強く肝に銘ずる必要がある。また、「学生にもっと考えさせる教育を」とか、「最新技術に関する情報を学んでほしい」のような意見も多かった。「求人も含めた会社の情報の収集を行い、学生に多くの情報を提供してほしい」という意見もあった。一方で、教員への感謝の意を表した「青春期に素晴らしい教官に出会えたことを感謝しています」などのメッセージも寄せられており、前述したように、「本校で学んで良かった」と思っている卒業生はかなりの割合になっている。高専の教員として大切なことは、常に学生に目を向け、情熱を持って指導すること、最新の知識や技術を学び自己の研鑽に励むこと、これらを強く望んでいることがアンケートの意見から汲み取れた。

以上のように、非常に多くの有益かつ示唆に富んだ意見が得られ、今後の本校の教育方針の策定や教育プログラムの改善に役立てていきたい。

最後に、これからの本校のあり方を展望すると、まず何と云っても、教員一人一人が良い授業をし、学生が「函館高専で学んで本当に良かった」と思えるようになることが大事である。加えて、学生にとって学ぶ意欲を向上させるカリキュラムや教育システム、ならびにこれらを検査するシステムを構築し、充実した学生生活を送ることができるように、学校全体として努力することも必要不可欠である。また、地域性や時代の流れを読み柔軟に対応し、教育機関ならびに研究機関としての水準を常に向上させる努力も必要であろう。函館高専が今後どのような教育機関として展開していくのか、卒業生や社会は、かなり期待して見ている様子が今回のアンケート結果から伺えた。「分かりやすく楽しい授業を！教員の熱意があれば学生は必ずついてくる！」という卒業生の意見を本校に対するエールと受け止めた。これらに堂々と答えられるよう、教職員一丸となって努力していかなければならない。函館高専の教育目標どおりの人材を育て社会に送り出すことが必要であり、本校に求められている役割は極めて大きい。

(文責： 教育システム点検検討部会 小原寿幸)

謝辞

本アンケートを実施するに当たって、津山高専、徳山高専で行われたアンケートを参考にさせていただきました。両高専に対して心から感謝申し上げます。